

第124回エイズ動向委員会

委員長コメント

《平成22年第4四半期》

【概要】〔資料1, 資料4, 資料5参照〕

1. 今回の報告期間は平成22年9月27日～平成22年12月26日までの約3か月
2. 新規HIV感染者報告数は303件（前回報告257件、前年同時期244件）で、過去1位
そのうち男性295件、女性8件で、男性は前回（240件）及び前年同時期（235件）より増加、女性は前回（17件）及び前年同時期（9件）より減少
3. 新規AIDS患者報告数は119件（前回報告111件、前年同時期84件）で、過去4位
そのうち男性116件、女性3件で、男性は前回（103件）及び前年同時期（80件）より増加、女性は前回（8件）及び前年同時期（4件）より減少
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は422件で過去1位

【感染経路・年齢等の動向】〔資料1, 資料4参照〕

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが218件（全HIV感染者報告数の約72%）
そのうち208件が日本国籍男性
 - 異性間性的接触によるものが54件（全HIV感染者報告数の約18%）
そのうち男性48件、女性6件
 - 静注薬物によるものは0件
（ただし、複数の感染原因が考えられるために「その他の原因による感染」に計上されているものが4件）
 - 年齢別では、特に20～30代が多いが、40代でも増加が見られる。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが53件（全AIDS患者報告数の約45%）
 - 異性間性的接触によるものが36件（全AIDS患者報告数の約30%）
そのうち男性34件、女性2件
 - 静注薬物によるものが1件
 - 年齢別では、特に30代以上に多い。

【検査・相談件数の概況（平成22年10月～12月）】〔資料6～資料9参照〕

1. 保健所におけるHIV抗体検査件数（確定値）は27,211件（前回報告26,904件、前年同時期27,887件）、自治体が実施する保健所以外の検査件数（確定値）は7,511件（前回報告7,342件、前年同時期6,604件）
2. 保健所等における相談件数（確定値）は42,030件（前回報告43,403件、前年同時期43,376件）
前回報告および前年同時期に比べ、抗体検査件数は増加したが、相談件数は減少した

【献血の概況（平成22年1月～12月）】〔資料10参照〕

1. 献血件数（速報値）は5,318,586件（前年確定値5,287,101件）
2. そのうちHIV抗体・核酸増幅検査陽性件数（速報値）は86件（前年確定値102件）
10万件当たりの陽性件数（速報値）は1.617件（前年確定値1.929件）

《まとめ》

1. HIV感染者、エイズ患者ともに、前回報告件数と比較して増加しており、特にHIV感染者は四半期ベースでは過去最多を更新し、HIV感染者とエイズ患者の合計も四半期ベースで過去最多を更新した。
2. 第4四半期のHIV抗体検査件数は、12月1日の世界エイズデーの影響で例年最も多くなる時期だが、検査件数の伸びは芳しくなく、検査件数が減少した昨年と同水準の検査件数に止まった。

《平成22年 年間報告（速報値）》

【概要】〔資料11～資料13参照〕

1. 今回の報告期間は平成21年12月28日から平成22年12月26日までの約1年（四半期ごと速報値の合計）
2. 新規HIV感染者は1,050件で過去3位
3. 新規エイズ患者は453件で過去1位
4. 合計は1,503件で過去2位

※これまでの最高は、平成20年（確定値）でHIV感染者1,126件、AIDS患者431件、合計1,557件。

【感染経路・年齢等の動向（速報値）】〔資料11～資料13参照〕

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが729件（全HIV感染者報告数の約69%）
 - 異性間性的接触によるものが191件（全HIV感染者報告数の約18%）
 - 静注薬物使用によるものが3件
 - 母子感染によるものが2件
 - 年齢別では、特に20～30代が多い
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが219件（全AIDS患者報告数の約48%）
 - 異性間性的接触によるものが126件（全AIDS患者報告数の約28%）
 - 静注薬物使用によるものが4件
 - 年齢別では、特に30歳以上に多い

【検査・相談件数の概況（平成22年1月～12月）】〔資料6～9参照〕

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数（確定値）は130,930件（前年150,252件）で過去4位。（過去最高は平成20年 177,156件）
2. 相談件数は164,264件（前年193,271件）で過去5位。（過去最高は平成4年 251,926件）

《まとめ》

1. 新規HIV感染者・新規エイズ患者ともに増加傾向にあり、身近な問題として積極的にHIV感染の予防に努めるべきである。
2. 新規エイズ患者は過去最多の件数が報告され、新規HIV感染者・エイズ患者に占めるエイズ患者数の割合は昨年に続き増加した。エイズ患者のうち40代以上が約6割を占めている。発症前に早期発見するために積極的な受検と、それを喚起する為の啓発活動が必要である。
3. 平成21年は検査・相談件数が大幅に減少した。新型インフルエンザの影響が指摘されたが、平成22年は更に検査件数が約19,000件、相談件数が約29,000件減少した。新規エイズ患者数は過去最多の件数が報告された一方で、検査件数が減少した。治療法が進歩した現在、国民の利便性に配慮したHIV検査をさらに普及し、早期発見・早期治療によってエイズ発症者を減少させることが重要である。
4. 薬物の社会へのまん延が懸念される現在、HIV感染と薬物使用の動向を注視する必要がある。
5. 平成22年は4年ぶりに母子感染が報告された。母子感染については、適切な感染防御対策を講じることで、感染率を1%以下にまで制御することが可能であることを、引き続き広く周知する必要がある。
6. 国民はHIV・エイズについての理解を深めていただきたい。早期発見は個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくので、無料・匿名で自治体等で実施されているHIV抗体検査・相談の機会を積極的に利用していただきたい。